



地域おこし協力隊って？

都心部から人口減少や少子高齢化などの課題を抱える地方へ移住し、地域の新たな担い手として農業・事業承継・情報発信などの「地域協力活動」を行いながら、地方への定住を目指す取り組みです。任期はおおむね1～3年。小坂町では現在3名の隊員（猪野直子、齋藤慶顕、田代俊之）が活動しています。最近の活動内容を紹介いたします！

◆真夏の草刈り作業

7月は雨がほとんど降らず、暑い日が続きました。「小坂七滝ワイナリー」のぶどう畑では、病害虫の被害がほとんどなく、ぶどうが順調に育っています。8月に行われる作業は、ぶどうの防除（薬剤散布）と副梢かき（葉が繁りすぎてぶどう棚面が暗くならないように適宜切除する）などですが、生い茂った草を刈るのも大事な作業です。陽ざしを浴びてグングン伸びた雑草は人の背丈を超えるものも。放っておくと水分や養分をぶどうから奪い、害虫やクマが寄ってきてしまいますから、頻繁に刈らなければいけません。協力隊の齋藤慶顕さんが、日々暑さやハチ・アブに耐えながら、懸命に草刈りに励んでいます。



齋藤慶顕さん「刈ってもすぐ伸びてくる！」

◆旧小坂鉄道「キハ2101」塗装修繕中

現在「小坂鉄道レールパーク」では保管している気動車・キハ2101の塗装修繕作業を行っています。キハ2101は、小坂鉄道の旅客営業が廃止された1994年まで運行されていた車両。長らく修繕されることなく傷んだ状態で保管されていたのですが、7月初めより修繕作業が開始され、近いうちにきれいな姿でお披露目予定となっています。

協力隊の田代俊之さん「キハは地域住民にとって小坂鉄道のシンボルのような車両。『残したい』と頑張っている人が多く、ふるさと納税のクラウドファンディングでも目標を上回る支援をいただきました。生まれ変わったキハを、ぜひ多くの方にぜひ多くの方に見てもらいたいと思います！」



修理前のキハ2101



修理中のキハ2101と田代俊之さん



記録的少雨でも「小公子」は元気いっぱい

◆東北移住＆つながり大相談会 2025

7月13日、東京・有楽町で「東北移住＆つながり大相談会」が開催されました。この相談会は東北6県の120以上の自治体・団体が一堂に会する、東北エリア最大規模の移住・交流イベントで、小坂町もブースを出展。協力隊の猪野直子が来場者の方々をお迎えいたしました。

対象エリアが東北6県と広いので、秋田県、ましてや小坂町のことはよく知らないという来場者も多い中、明治時代の壮麗な建物が残る街並みや山ぶどうワインなどに興味を持たれ、お声をかけてくださる方々もいらっしゃいました。こうしたご縁から小坂町に行ってみようかな？と思ってくださる方が増えてくれればうれしいです。



ブースで相談するとご当地キャラクターの缶バッジが作れます



小坂町の缶バッジは
かつらーめんかぶきん！



640名以上の来場がありました



小坂町に興味を持ってくださった
20～70代の方々と面談（猪野直子）

◆協力隊 Instagram のフォローもお願いいたします！

地域おこし協力隊員が、日々の活動やイベントへの参加、小坂町での暮らしなどについて不定期でつぶやいておりますので、こちらもぜひご覧ください。



@KOSAKAKYORYOKU



「小坂町地域おこし協力隊かわら版」はおおむね毎月10～15日ごろにゆるく発行予定です。
みなさんの小坂町での暮らしや取り組み、イベントなどの情報をお知らせください！

編集・発行 小坂町総務課企画財政班（地域おこし協力隊 猪野） 0186-29-3907